特集

地域と学校が協力し、より豊かな介護福祉サービスを目指す

「北いわて」の介護の専門性向上に取り組む阿部也寸志先生（一戸高校）

阿部也寸志先生は、県立一戸高校に赴任して8年目になります。学生の頃は自分が福祉の分野に進むとは考えていなかったそうですが、大学時代に所属したボランティアサークルで障がい者との出会いや介護の経験を重ねるうちに、障がい児教育の道を目指すようになりました。現在は福祉の科目を担当しながら、地域における介護福祉の未来をより充実したものにするべく、さまざまな取組を行っています。

令和4年6月に初めて開催した「北いわて介護福祉産学勉強会」も、そうした活動の一つ。これは同校の生徒や地域の事業者などが一緒に学ぶことのできる場で、年2回のペースで開催しています。

「事業所の皆さんの思いや努力、そして協力があって初めて実現できる取組なんです」と語る阿部先生に、活動内容や将来のビジョンについて伺いました。

地域の介護福祉に尽力する
阿部也寸志先生

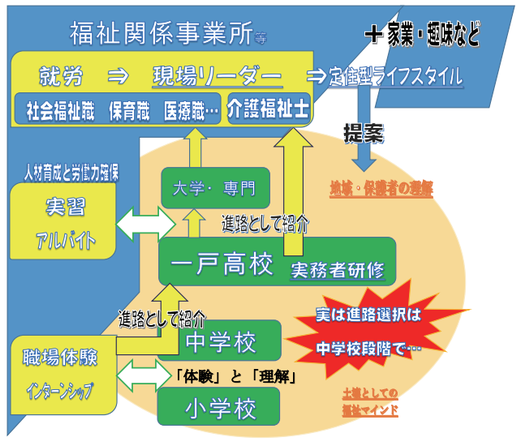
地域性を生かした 一戸高校ならではの活動

一戸高校は明治44（1911）年に開校した、県内でも有数の長い歴史を持つ学校です。平成17（2005）年には県内で7例目となる総合学科を設置し、生徒たちがより主体的に学ぶことのできる環境を作りました。さらに2年生になると、「人文・自然系列」や「情報ビジネス系列」など、4つの系列に分かれて将来に役立つ専門的な学習を行います。その中の「介護・福祉系列」では、介護福祉士に必要な知識と技術を習得するほか、介護福祉士国家試験の受験資格も取得することができます。（卒業後3年間の実務経験が必要）

また、同校と地域の関わりとして特徴的なのが、長期休みを利用して生徒たちが福祉事業所でアルバイトをすることです。これは阿部先生が赴任した8年前から行われているもので、「学生のうちから介護職となる人材を育てていこう」という学校側からの提案でスタートしました。当初は地域の実勢より高い時給での雇用をお願いしていたそうで、その理由について阿部先生は「最低賃金にしてしまうと、生徒たちの介護福祉分野に対する印象が悪くなる恐れがありました。今は賃金にとらわれることなく、生徒は仕事そのものに魅力を感じているようです」とのことでした。

施設側の立場で考えれば、学生に給料を払い日々の業務の中で仕事も教えるとなると、現場の負担は決して小さくありません。しかし将来的な人材の確保や育成につなげたいという思いから協力してくれる施設が増えるのと同時に、既存の職員の待遇についても見直す動きが出てきました。生徒もアルバイトをした施設に就職するケースが増えていて、昨年度の介護・福祉系列で就職を希望した卒業生は、全員が地元の施設に就職しました。学校と各事業所が力を合わせることで、地域への定着率向上や現場の待遇改善を実現したのです。

福祉人材を「育み」、「定住」に導く循環づくり



平成30（2018）年に阿部先生が提案した定住型ライフスタイルで、地域全体で人材を育成するためのサポート体制を構築するもの。働きやすく住みよい環境を作ることで、定住につなげることを目指します。

参加者の自主性を重視した 手作りの勉強会

令和3年1月には「北いわて介護福祉産学勉強会」が発足しました。

実は一戸高校では、以前から生徒が行う発表を地域の介護関係者に指導してもらう「介護過程発表会」を行っていました。そこに久慈東高校や一関第二高校が加わって規模が拡大し、介護関係者と各校の教員の間で「せっかくだから何かやろう」と話し合った結果、現在の勉強会へと発展。初回は高校生や事業所、器具メーカーなど80名以上が参加しました。

名称を研究会ではなく勉強会にした理由は、「レベルの高いものを追求するよりも、参加者が勉強したいと思うテーマで自由に楽しく学ぶことを目指したため」だそうです。

そんな「北いわて介護福祉産学勉強会」には、事務局がありません。開催の告知は口コミがメインで、終了後には参加者全員で椅子などの片付けも行います。阿部先生は「続けていくうちに、それぞれのテーマを深く掘り下げて学ぶコミュニティが生まれればうれしいですし、施設ごとの人事交流につながる可能性もあると思っています。最終的には発足から8年で、発展的に解散することを想定しています」と教えてくれました。

実技テストに臨む介護・福祉系列の３年生

地域とともに歩む 介護福祉の未来

今、県内では人口減少を背景とした高校再編が続き、福祉科 教育は厳しい状況下にあります。そうした状況について、阿部先生は介護福祉の分野を一つの産業として捉えることが必要だと訴えます。

「介護福祉に関わる職員は、自らの技術を提供することで技術料を受け取り、生計を立てています。それはプロフェッショナルの技があるからこそできることですし、そうしたプロ集団は全国各地で活躍しています。〝人生100年時代〟といわれる今こそ、福祉の分野も立派な産業であると認識し発展させることが重要です」

介護福祉の分野は需要の先読みができ、経営の見通しが立てやすいのが特徴です。働く側は地域に根ざすことで暮らしを安定させ将来設計を描くことができますし、全国的に見ても高校の福祉科は地域への定着率が高い傾向にあり、地方にとっては特に重視すべき産業といえるのではないでしょうか。

福祉の分野が発展することで、働く側もサービスを受ける側も、より心豊かな暮らしを営むことができる。そうしたビジョンを胸に、阿部先生はこれからも多彩な取り組みに挑戦していきます。

阿部先生は長く介護福祉の教育に携わってきた

「北いわて介護福祉産学勉強会」とは

北いわてで介護福祉に関わる誰もが、気軽に楽しく参加できる勉強会として発足。各回のテーマは参加者の声によって決められるほか、今年2月には一戸町の支援を得て北九州市で行われたノーリフティングケアと介護記録のICT化の研修に、高校生との地域の施設職員が参加。6月の勉強会では、研修報告も行われました。次回は11月に「看取り」をテーマに洋野町での開催を予定しています。

施設概要 岩手県立 一戸高等学校

◆開校：明治44年4月4日
◆学科：総合学科（人文・自然系列、情報ビジネス系列、生活・文化系列（家庭・芸術・農業）、介護・福祉系列）
◆住所：岩手県二戸郡一戸町一戸字蒔前60-1
◆電話：0195-33-2861（事務室）